

宗岡二中だより

1月号



令和6年1月9日

自ら学び考える生徒
学校教育目標：心豊かな優しい生徒
明るく元気な生徒

ファーストペンギン・スピリット

校長 伊藤大輔

ペンギンが氷の上をうろうろしているのを見たことがありますか。水の中に飛び込むそぶりを見せながら、なかなか飛び込まない。飛び込むかと思うとやめてしまう。お互いに、「お先にどうぞ。」と譲り合っているようにも見えます。あの愛らしいペンギンの仕草には、自然界で生き残るための厳しい条件が隠されているのです。

南極に暮らすペンギンたちは、海に飛び込んで食料となる魚を捕ります。ところが、海にはシャチやアザラシ、オットセイなどの肉食獣がペンギンを狙って海の中で待っています。危険と隣り合わせです。魚は食べたい、でも敵がいて食べられてしまうかもしれない。ペンギンはいつも氷の上で右往左往しています。そんなペンギンの中で最初に飛び込むペンギンは「ファースト・ペンギン」と呼ばれています。他のペンギンたちは、最初に飛び込んだペンギンが無事にエサを捕って帰ってきたのを確認すると、次々と海に飛び込みます。最初に飛び込むペンギンは怖くないのでしょうか？最初のペンギンは、絶対に割が合わない役目だと思います。しかし、皆が皆そう思っていると、全員エサにありつきません。みんな、飢えて死んでしまうかもしれません。誰かが1番にならなくては、2番目、3番目はないのです。ちなみにこの最初に飛び込むペンギンは、群れのリーダーではありません。サルの群れのような序列はなく一員が飛び込むのです。つまり、どのペンギンもファースト・ペンギンになりえるのです。

さて、私たち人間が生きる世界にも時に、海を前にしたペンギンのような場面があります。学校生活においてもありそうです。例えば、クラスの中で係や

何かを決める時、どうしても友達に意見をしなくてはいけない場面。最初に言葉を発したり、行動に移したりすることはとても勇気がいること、大変なことです。何かをチャレンジするときは、ファースト・ペンギンのように「行くぞ！」「やるぞ！」と言った決意が大切です。怖がって新しいことにチャレンジしなければ、進歩や成長はありません。アメリカでは、このように勇気をもって、知の世界や仕事に飛び込むことを「ファーストペンギン・スピリット」と言います。最初の一步を踏み出す勇気と言い換えてもいいでしょう。

その一方で、最近ではセカンド・ペンギンという言葉も使われます。ファーストペンギン・スピリットをもった人が危険な目にあうのか、見事成功するのかを見極めてから行動を起こす人を指します。「慎重・かしこい」という良い意味と「ひきょう・こそく」という悪い意味と両方の解釈があるそうです。

辰年が始まります。辰は天候をも支配する巨大な力の持ち主と考えられています。このことから辰年は時代を動かす「変革(転機)」や「激動」の年と呼ばれています。入試本番を控えた三年生はじめ宗岡二中の皆さんには変化を待つのではなく、ファーストペンギン・スピリットを持って、変化を起こす存在であってほしいです。一年間の仕上げとなる三学期は皆さんがこれまで着々と蓄えた力を形にするときです。期待しています。

保護者並びに地域の皆様におかれましては、日頃より本校生徒が安心安全な毎日を過ごせるよう、温かい目で見守っていただきありがとうございます。本年も昨年同様、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。